大阪医科大学附属病院 広域医療連携センター

MIZUKI

医療連携室ニュース「みずき」

〔volume〕
26
2014 AUTUMN

contents

部門のご紹介
「産科・生殖医学科」「新生児科」
診療科名称変更のお知らせ
「連携医療機関登録制度」の登録募集
編集後記

写真：ハナミズキ実

中央手術棟着工！～新棟建設のお知らせ～

2027年の創立100周年に向け、全病院の建替え構想を進めております。その第一段として、中央手術棟を本年8月に着工いたしました。

この中央手術棟には、ハイブリット手術室2室、内視鏡・ロボット手術室5室、BCR手術室2室、感染用手術室1室、汎用型手術室6室、及び回復室を設けた日帰り対応手術室4室の合計20室を設置いたします。

病室としては、集中治療室（ICU）16床、高度治療室（HCU）4床、心臓血管外科・呼吸器外科病棟38床、及び消化器外科病棟44床を配置する予定です。

急性期医療を行う、大学病院、また特定機能病院として最新の医療機能（機器・設備等）を備えた施設です。完成の暁には、さらに皆様のご期待に応えられる大阪医科大学附属病院になります。なお、この中央手術棟の完成は2016年1月の予定です。

部門のご紹介①

産科・生殖医学科

新任のご挨拶

この度産科・生殖医学科科長を拝命いたしました。産科・生殖医学科は、生殖医学における内分泌異常や不妊患者への集学的治療を始め、周産期分野における、胎児診断、合併症妊娠の管理、母胎救急搬送、合併症妊娠の分娩、危機的周産期出血への対応など、幅広く取り扱っております。

スタッフ全員が一丸となって、今まで以上に周産期・生殖医学診療拠点として地域に信頼される診療科になるように努力してまいる所存でございます。

何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

科長
寺井 義人
（てらい よしと）

- 専門分野　婦人科腫瘍、内視鏡下手術
- 資　　格　日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診指導医、日本産婦人科内視鏡技術認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医
- 略　　歴　平成4年3月　福井医科大学（福井大学医学部）卒業
  平成4年6月　大阪医科大学附属病院にて臨床研修開始
  平成11年4月～平成12年10月　東北大学加齢医学研究所腫瘍循環分野に国内留学
  平成16年10月～平成17年10月　米国コロラド州立大学病理学教室留学
  平成18年6月　大阪医科大学　講師（産婦人科学教室）
  平成24年4月　大阪医科大学　診療准教授（産婦人科学教室）
  平成26年7月　大阪医科大学准教授（産婦人科学教室）、産科・生殖医学科科長
- 趣味/特技　音楽鑑賞、読書

産科・生殖医学は、思春期の月経異常から性成熟期における不妊治療、妊娠から出産まで女性のトータルヘルスケアの一翼を担っている科です。

大学病院という性格上、合併症妊娠、高齢妊娠などハイリスク妊婦や重症合併症妊娠が多く、大阪府下妊婦緊急搬送システム（OGCS）やMFICU（母体・胎児集中治療管理室）で365日24時間対応しております。

ハイリスク妊娠の中には、妊娠中期に出産しなければならない分娩の取り扱いもあり、母体合併症の危険性のみならず、NICUでの管理が必要な超早産低出生体重児の出生も多く含まれますが、小児科の先生方のおかげで他院以上に良好な成績をあげております。

さらに7月からは、各医療機関の先生方が直接産科担当医師に連絡を取り、早急な対応が可能となるよう「周産期ホットライン」を開設いたしました。

また、妊娠中に胎児合併症の有無が心配な妊婦さんの相談窓口として、7月よりオープンシステムによる胎児の奇形や心疾患の有無などを超音波検査で精査する出生前ベビードックを月曜日に予約制で開設いたしました。是非ご利用ください。

出生前診断ベビードック

一方、生殖医療分野におきましては、近年妊娠希望女性の高齢化などから、子宮筋腫、子宮内膜症など婦人科疾患合併の不妊患者さまが増加しています。我々は婦人科疾患合併及び、高齢不妊を含む原因不明の難治性不妊症例の患者さまに対する腹腔鏡下手術を含めた、集学的治療を進めております。

我々、産科・生殖医学科一同は、様々な専門診療科を持つ大学病院の強みを生かしつつ、地域医療の発展のため、より高度で安心な医療をご提供していくために努力する所存でございます。

地域の先生方におかれましては、今後とも産科・生殖医学科を何卒よろしくお願い申し上げます。

部門のご紹介②

新生児科

新任のご挨拶

科 長
荻原 享
（おぎはら とおる）

時代の流れに歩調を合わせ、小児科の中で新生児医療に特化した部門として、新たに新生児科が発足いたしましたが、名称が何であれ、我々の使命は、人生のスタートで何らかのトラブルに遭遇した赤ちゃんたちを一刻も早くご両親の元にお返しすることに相違ありません。そのために、スタッフ一同、笑顔を忘れることなく、従来どおり全力で取り組んでまいります。

- 専門分野　新生児慢性肺疾患、フリーラジカル
- 資　　格　小児科専門医、周産期新生児学会新生児暫定指導医
- 略　　歴　昭和57年　大阪医科大学　卒業
  昭和57年　大阪医科大学　小児科　入局
  平成元年　大阪医科大学　小児科　助手
  平成9年　大阪医科大学　小児科　講師
- 趣味/特技　昆虫採集（セモンササキリモドキの第一発見者/命名者）

本院の周産期センターは、1981年の開設以来30有余年の歴史を重ねてまいりました。特に、1999年のNICU認可以降治療成績の向上は目覚しく、在胎週数28週未満、出生体重1000ｇ未満の超早産超低出生体重児の生存退院率は95%近くに達しています。予後についても、体格や眼科的な障害など、問題点は決して少なくはありませんが、重度の脳性麻痺や知的障害の発生率はきわめて低く、85%以上は正常域の発達経過をたどっております。また、出生体重1000ｇ未満の超低出生体重児の入院数は、院外からの動脈管閉鎖術依頼も含め、年間20名以上をキープしており、日本周産期新生児医学会が提唱するA1クラスのNICU基準を満たしています。今では、在胎23週、300ｇ台の赤ちゃんでも生存退院が十分期待できるようになり、大学病院付属の周産期センターとしては、全国屈指の施設と自負しています。最近の死亡例のほとんどは、新生児慢性肺疾患による呼吸不全で、生後8ヶ月から1年の間に亡くなっています。なお、当科は、新生児慢性肺疾患研究では、わが国を代表する研究機関の一つです。地域連携に関しては、当院はOGCS（大阪産婦人科相互援助システム）の基幹病院として積極的に母体搬送を引き受けており、母体搬送例が院内出生児の2割を占めています。特に、超低出生体重児や重症心奇形などのハイリスク児については、母体搬送が望ましいことは言うまでもありません。また、日本周産期新生児医学会の新生児専門医基幹施設として、年間40例程度の新生児搬送も受け入れています。先天性心疾患の対応にも積極的に取り組んでおり、複雑心奇形も含めて、周産期センターでは年間20例程度の手術を行っています。

出生体重別 2008-2013	死亡数／入院数	生存退院率（%）
BW<400g	0／2	100
400g≦BW<500g	1／5	80
500g≦BW<600g	1／11	91
600g≦BW<700g	2／16	88
700g≦BW<800g	0／14	100
800g≦BW<900g	1／14	93
900g≦BW<1000g	0／16	100
BW<1000g total	5／78	94
1000g≦BW<1500g	0／81	100

在胎週数別 2008-2013	死亡数／入院数	生存退院率（%）
23wk≦GA<24wk	1／8	87.5
24wk≦GA<25wk	2／13	85
25wk≦GA<26wk	1／10	90
26wk≦GA<27wk	1／20	95
27wk≦GA<28wk	0／19	100
<28wk total	5／70	93
28wk≦GA<30wk	0／22	100
30wk≦GA<32wk	0／50	100

早産低出生体重児の生存退院率（2008−2013年）

現在の医療スタッフは、大学院生2名を加えた総勢7名の新生児科医、および34名の看護師により構成されており、capacityにはまだまだ余裕がありますので、母体搬送を考慮される際には、ぜひ、本院を選択肢の一つに加えていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

◎診療科名称変更のお知らせ

平成26年9月1日から、一部の診療科名称を変更いたしました。

（旧）　　（新）

脳神経外科 ⇒ 「脳神経外科・脳血管内治療科」

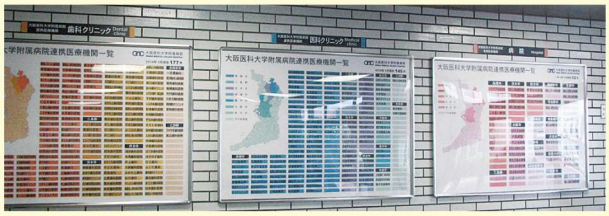
放射線科 ⇒ 「放射線診断科・放射線治療科」

各診療科のカバーする分野・疾患領域を、より分かりやすく表現するため、診療科名を変更いたしました。
今後とも変わらぬご支援ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

◎医療連携室からのお知らせ

■「連携医療機関登録制度」の登録募集

本院が地域の医療機関様と連携していることを患者さまにお知らせし、安心して医療を受けていただくことを目的として、昨秋より「連携医療機関登録制度」の運用を始めました。さらに、本年4月より歯科クリニック様の登録受付も始めました。



平成26年8月1日現在で、220医療機関様と183歯科クリニック様のご登録をいただきました。ご登録いただきますと、本院正面玄関には登録医療機関様のお名前を掲示し（右上写真）、また「連携証」および「連携プレート」（右下写真）を本院からご提供いたします。登録がお済みでない医療機関様はぜひご検討ください。

編集後記

一万人も参加する大きなマラソン大会でも、毎年決まって同じ方を見かけることがある。
名前も知らない、話しもしたこともない、しかし去年も確かに見かけた人が何人かいる。
どうして同じ方か、分かるのか？
実は、特徴あるランニングフォームで覚えてしまっている。
右にバランスをとって、腕をグルグル回して走る方。
足を引きずるように、身体をくねらせて走る方。
ともあれフルマラソンは、とうてい走れなさそうなフォームなのに、実は強いのだ。
ひどいフォームの方に後半ゴール間近になって、追い抜かれる経験を何度もした。
この大会に出場するための幾日もの練習、走り込みがこのフォームにたどり着かせたのだろう。
抜かれた後の背中にいぶし銀のしぶとさを感じる。
当たり前だが、マラソンはフォームを競ってなんてない。アンバランスとも思える、このギクシャクしたフォームも実は怪我や故障など、風雪に耐え忍んだ力強さなのだろう。
この冬のマラソン大会で、またお会いすることになるのだろうか？
しかしできることなら、今度は私の背中でそれを感じさせたい。（M.M）

医療連携室ご利用のご案内

■ 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平　日／8:30～20:00
土曜日／8:30～12:00
※第2･第4土曜日は休診です。
※FAX受信は24時間可能（休診時も含む）。
但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

■ 送信先

FAX.072-684-6339
大阪医科大学附属病院　広域医療連携センター医療連携室
〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7
TEL.072-683-1221（大代表）内線2308
TEL.072-684-6338（医療連携室直通）

● 本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。お手数ですがご利用の場合は、電話又はFAXにてご請求ください ●